



巻 頭 エッセイ

腹話術で 英語が上達！

いっこく堂 Ikkokudou

ろくに日常の英会話もできない私が、英語習得法なんて大それたことを言えるような立場ではありません。しかし、何かしらヒントになるかもしれないということで、私の経験をご紹介します。

3年前の夏、ラスベガスで世界腹話術フェスティバルが開催されました。世界各国の腹話術師が一堂に会する大イベントです。私は光栄にも、そのオープニングパフォーマーに抜擢されたのです。と、そこまでなら喜ばしいだけの話なのですが、一番肝心なことは、当の本人である私が、全く英語が話せないという点にありました。

フェスティバルへの出演は、あまりにも突然に決まりました。40日前に決定し、ネタを英訳し終えたのが28日前だったのです。かなり無謀な挑戦でしたが、こんなチャンスはなかなか来ないだろうということで、参加を決断したのです。

さあ、それからが大変……。ただ普段やっている日本語を英訳するだけではなく、世界で通用する、特にアメリカ人にウケるネタに作り変える必要がありました。そこで、今や「英語でしゃべらナイト」(NHK)などでおなじみの、パトリック・ハーランに相談しつつ、発音も教えてもらい、作り上げていきました。

英語の学習法としては疑問を抱きつつも、とにかく丸暗記に取り組みました。すると、不思議なことに、2週間を過ぎたころから、自然に言葉が流れ出るようになってきたのです。今思うと、それは歌を覚える時の感覚に似ています。細かい意味までは理解していませんでしたが、リズムで覚えました。その時に必要だったのは、とにかく覚えることだった

ので、それはそれでよかったのかもしれませんが。

とは言いましても、私の場合、「唇を動かさずに発音しなければならない」という、もうひとつの大きな作業がある訳です。しかし意外なことに、腹話術の舌の動かし方と、英語の発音の仕方には共通点があったのです。例えば [th] の時の、上下の歯で軽く舌を噛んで発音する音や、上の歯で下唇を軽く噛む [f] や [v] などは、日本語で腹話術をする発声法にもあるのです。ですから、腹話術を始めてからの方が、英語の発音がよくなったように感じられます。

フェスティバルの結果ですが、……大喝采を受けました。とは言っても、英語力への評価ではなく、腹話術の技術への拍手でした。でも、本当にお客さんにはすんなり受け入れてもらえて、たとえ丸暗記でも、無理して参加してよかったと思っています。

あれから3年、今真剣に英語に取り組んでいます。今年の1月に、LAとデトロイトで公演しましたし、この7月にも、ニューヨーク、サンディエゴ、再びLAに行きました。

まだまだ、丸暗記をようやく一歩踏み出したといった実力ですが、夢は、アメリカ人相手に「アドリブでウケをとる」ことです。道のりは遠くても、実践でつかめるものは大きいはず。皆さんも、どんどん実践にチャレンジしてみたいはいかがですか。

いっこくどう

沖縄県出身。劇団民藝を経て腹話術師に転向。『文化庁芸術祭新人賞』などを受賞。今夏は全米ツアーで大成功をおさめる。新作「人形アラ?モード」ほか、ビデオ・DVD作品多数。現在「ボイスリジェネレーションツアー2003」を全国27カ所で展開中。